

シニア・ストラテジスト
山本 雅文

マネックス証券株式会社
www.monex.co.jp

焦点は再び中国に

<ポイント>

- ◆昨日は、米 FOMC が利上げを見送ったことから、米利回りの急低下と共にドルが対円や対欧州通貨で大きく下落したのが特徴的だった。ドル/円は一時 119 円台へ下落、ユーロ/ドルは 1.14 ドル台乗せへ上昇した。
- ◆他方、豪ドル、NZドルやカナダドルも FOMC 発表直後は大きく上昇したものの、利上げ見送りでも米株価やコモディティ価格が上昇しなかったことから、すぐに反落しほぼ発表前の水準に戻った。
- ◆米 FOMC では、GDP 成長率、コア PCE デフレーターや FF 金利の見通しを下方修正した上で、世界景気減速とそのインフレ率への影響の評価にもう少し時間がかかるとして利上げを見送った。Yellen 議長は次回 10 月も含め年内利上げの可能性が高いとしており、筆者も現時点では 12 月 FOMC での利上げの可能性が引き続き高いとみているが、世界景気や米インフレ動向次第では来年に先送りされるシナリオも意識される状況が続きそうだ。
- ◆本日は、FOMC 後で材料も少なく、Stevens・RBA 総裁発言(8:30)、Haldane・BoE チーフエコノミスト発言(20:05)およびカナダ 8 月コア CPI(21:30)くらいしか予定されていないため、FOMC 結果の消化が続きそうだ。ドル/円は、120 円前後では押し目買いが入るかもしれないが、利上げ時期が不透明な中で、積極的なドル買いは入りにくそうだ。こうした中、中国株価が大きく下落するようだと、再び 119 円台もありそうだ。

昨日までの世界:米国の先送り症候群、先送り時期は年内とは限らず

ドル/円は、欧州時間には米 FOMC の利上げリスクを織り込む動きからか上昇し、発表前に一時 120.99 円へ強含みとなった。その後、米 FOMC が利上げを見送ったことから、米利回りの急低下と共に一時 119.80 円へ下落した。但し本日早朝にかけては 120 円台前半を回復している。

米 FOMC では、2016 年、2017 年の GDP 成長率とコア PCE デフレーター、および FF 金利見通しは 2015 年から 2017 年分まで下方修正した上で、世界景気減速とそのインフレ率への影響の評価にもう少し時間がかかるとして利上げを見送った。Yellen 議長は次回 10 月も含め年内利上げの可能性が高いとしており、筆者も現時点では 12 月 FOMC での利上げの可能性が引き続き高いとみているが、世界景気や米インフレ動向次第では来年に先送りされるシナリオも意識される状況が続きそうだ。

ユーロ/ドルは、欧州時間にかけては 1.13 ドル丁度を挟んだもみ合い推移が続いた後、米 FOMC の利上げ見送りを受けて急上昇し、1.1441 ドルの高値をつけた。

ユーロ/円は、欧州時間にかけてはドル/円の強含みとともに 136 円前後から一時 137 円乗せとなり、

更に FOMC 後は対ドルで円よりもユーロの方が上昇したことから、137.45 円へ続伸した。

豪ドル/米ドルは、欧州時間にかけては原油などコモディティ価格の反落を眺め 0.72 ドル丁度前後から 0.71 ドル台半ばへ軟化して推移していた。その後、米 FOMC の利上げ見送りが伝わると急反発し、一時 0.7276 ドルの高値をつけた。もっとも、米利上げ見送りでも米株価やコモディティ価格が上昇せず、リスクオンにはならなかったことから、すぐに 0.71 ドル台後半へ反落し、ほぼ発表前の水準に戻った。利上げ見送りの一因が世界景気に関する慎重な見方だったことが背景にあるとみられる。

豪ドル/円も、欧州時間にかけて 86 円台前半へ軟化した後、米 FOMC 発表後に 87.51 円へ急反発する局面があったもののすぐに反落し、一時 86 円割れとなった。

きょうの高慢な偏見: 焦点は再び中国に

[今週の見通しはこちら\(9月11日付FX戦略ウィークリー\)](#)

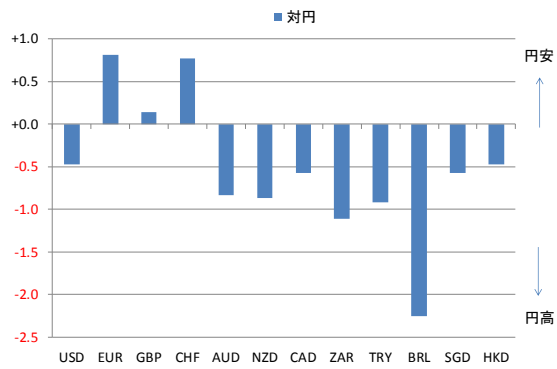
[今週の経済指標カレンダーはこちら](#)

ドル/円は、本日は材料も少なく、FOMC 結果の消化が続きそうだ。120 円丁度前後では押し目買いが入るかもしれないが、利上げ時期が不透明な中で、積極的なドル買いは入りにくそうだ。こうした中、中国株価が大きく下落するようだと、再び 119 円台もありそうだ。

ユーロ/ドルも、米利上げ先送りと中国株価への警戒感から高止まりが続きそうだ。ECB 追加緩和期待は煽るが、ECB 高官からより明確な追加示唆発言が出ないと、下落基調への回帰は難しそうだ。

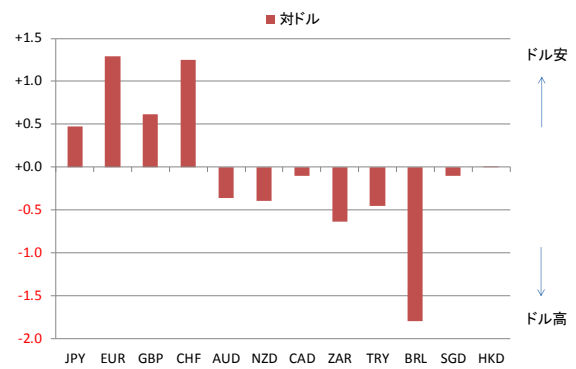
豪ドル/米ドルは、米 FOMC も世界景気減速の悪影響の可能性を認めたことで、コモディティ価格と同様に上値の重さが再認識されたかたちとなっており、中国株価とコモディティ価格が下落すると、豪ドルも再び下落基調に戻りそうだ。

主要通貨の対円相場(前日比%)



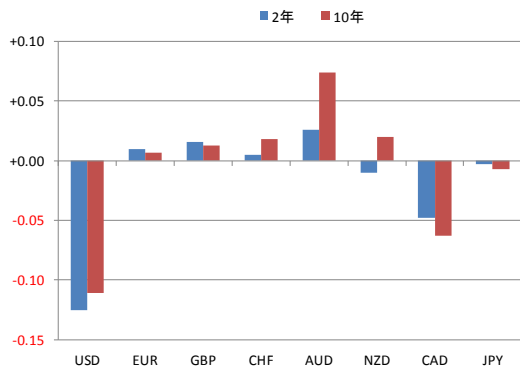
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要通貨の対ドル相場(前日比%)



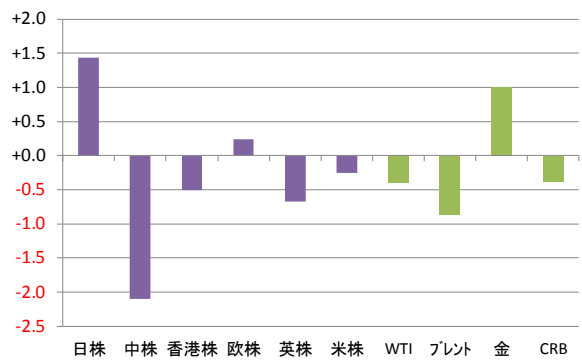
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要国の中長期債利回り(前日差%ポイント)



(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要株価・商品価格(前日比%)



(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

ご留意いただきたい事項

マネックス証券(以下当社)は、本レポートの内容につきその正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。当社が有価証券の価格の上昇又は下落について断定的判断を提供することはありません。

本レポートに掲載される内容は、コメント執筆時における筆者の見解・予測であり、当社の意見や予測をあらわすものではありません。また、提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。

当画面でご案内している内容は、当社でお取扱している商品・サービス等に関連する場合がありますが、投資判断の参考となる情報の提供を目的としており、投資勧誘を目的として作成したものではありません。

当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。

本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

当社でお取引いただく際は、所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。お取引いただく各商品等には価格の変動・金利の変動・為替の変動等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。また、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。信用取引、先物・オプション取引、外国為替証拠金取引をご利用いただく場合は、所定の保証金・証拠金をあらかじめいただく場合がございます。これらの取引には差し入れた保証金・証拠金(当初元本)を上回る損失が生じるおそれがあります。

なお、各商品毎の手数料等およびリスクなどの重要事項については、「[リスク・手数料などの重要事項に関する説明](#)」をよくお読みいただき、銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身のご判断で行ってください。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会